

長崎ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) の活動について

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
(NASHIM) 運営部会 副部会長
長崎大学原爆後障害医療研究所
災害復興科学分野 教授
高村 昇

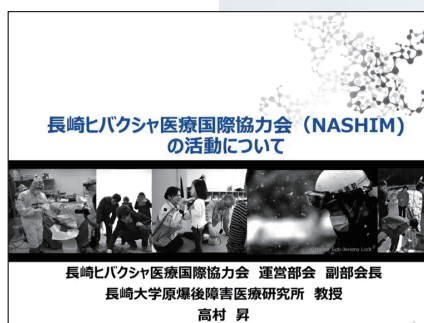
Initiatives of the Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

Vice Chair, Executive Committee,
Nagasaki Association for Hibakushas'
Medical Care (NASHIM) / Professor, Department of
Disaster Resilience and Science, Atomic Bomb
Disease Institute, Nagasaki University
Noboru Takamura M.D., Ph.D.



#1

HICARE 35周年、誠におめでとうございます。NASHIMは、HICAREの1年後にできましたので、今年で34年目、HICAREの1歳年下の弟ということになります。今日は弟がお兄さんに「最近、こういうことやってるんですよ」と報告するという感じで話をしたいと思いますので、そのつもりでお聞きいただければと思います。



#1

First of all, I would like to extend my heartfelt congratulations to HICARE on its 35th anniversary. NASHIM was established the following year, so our organization is like a younger brother, being one year younger. Today, I will explain the activities and projects that we carry out at NASHIM. It is like a younger brother telling his elder brother, "Lately, I am doing this kind of things."

#2

先ほど土肥先生の方からお話ございましたが、NASHIMも設立の一番大きなきっかけはチヨルノービリの原発事故でした。



#2

Like HICARE, NASHIM was also established in response to the Chernobyl accident.

#3

長崎大学は、1990年から笹川チェルノブイリ医療協力プロジェクトに参画しました。特に甲状腺のスクリーニングに参画したのが1990年からです。土肥先生からお話があったとおり、チョルノービリでは甲状腺癌が増えているということが分かってきたわけですが、同時に、当時はまだ旧ソビエト連邦で、医療体制が不十分である、例えばがん診断できる能力が十分でないということもだんだん分かってきました。従って、チョルノービリの被曝者を診る医師、医療人に、十分な能力をつけていただきたいということが課題として挙がってきました。



#3

As part of the Sasagawa Medical Collaborative Project, we have been involved in thyroid cancer screening since 1990. As Professor Dohy explained, there was a significant increase in thyroid cancer following the Chernobyl accident. It also became clear that the medical system in the former Soviet Union was insufficient. Their diagnostic capabilities for cancer were limited, and this gradually became evident. The Hibakusha recognized that doctors in Chernobyl needed support in examining and diagnosing affected individuals. We believed that it was necessary to equip those doctors with the capabilities to examine and diagnose these patients.

#4

そこで、1991年、被爆者医療国際協力懇談会を開催して、NASHIMの立ち上げのきっかけとなったわけです。一方で、先ほどからお話が出ている、いわゆる在外被爆者の支援も広島と連携しながらやっておりますので、これもNASHIMの活動としてやっていこうということになりました。そして、1993年からチョルノービリ周辺から研修生の受け入れを開始することになったわけです。

長崎県の動き : Preparation for NASHIM	
1991年5月 「ヒバクシャ医療国際協力懇談会」開催 May 1991: Preparatory conference for NASHIM	
1992年11月 在外被爆者（北米、南米）渡日事業開始 November 1992: Medical treatment of A-bomb survivors from North and South America	
1993年8月 チョルノービリ周辺からヒバクシャ医療研修生の受け入れ開始 August 1993: Training of medical specialists around Chernobyl	

#4

In 1991, the Nagasaki Association for the Study of Hibakusha Medical Care was inaugurated. At the same time, support for overseas Hibakusha —already being carried out in cooperation with Hiroshima— was incorporated into NASHIM's activities. Subsequently, from 1993, NASHIM began accepting trainees from areas surrounding Chernobyl.

#5

HICAREと同様、NASHIMも被爆者に関連しているようなオール長崎の医療機関が参加する、それを長崎県、長崎市から財政的にサポートいただくという体制になっています。ですから、日赤長崎原爆病院放射線影響研究所に長崎大学が加わる形で事業を進めているということになります。



#5

Like HICARE, NASHIM is a Nagasaki-wide framework of medical institutions related to atomic bomb survivors, supported by Nagasaki Prefecture and Nagasaki City. Its activities are carried out jointly by the Japanese Red Cross Nagasaki Atomic Bomb Hospital, the Radiation Effects Research Foundation, and Nagasaki University.

#6

大きく言いますと、NASHIMの取り組みとしては、一つは人材育成。先ほど申しましたが、被爆者を診る人材を育成するために、研修生を受け入れたり、こちらから派遣で行ったり、あるいは医学教科書を作ったりします。さらには、後継者を育成する、これは海外だけでなく長崎もそうなのですが、被爆者医療をやっていく人材の後継者を育成していきましょう。そして、そういうことをやっていることを情報発信していきましょうというのが、NASHIMの大きな活動になります。

#7

これは実際に研修生を受け入れている写真です。これは去年の8月の写真ですが、このときは3年振りにウクライナから研修生を受け入れております。元々、ウクライナ、ベラルーシ、ロシア、カザフスタンという4カ国から受け入れていたのですが、ウクライナの場合、ウクライナ侵攻があって、特に医療関係者が国外に出るのが極めて難しい状況になります。昨年何とか1カ月であればということで受け入れることが可能になり、3年振りにウクライナの皆さまの研修を行いました。

#8

長崎大学での研修プラス日赤長崎原爆病院での研修で、長崎における被爆者医療の実際について学んでいただく。そして、ちょうど8月ですから、8月9日の原爆記念式典にも参加していただいて、被爆者の生の声を聞いていただくという活動をしております。

#9

さらに、在韓被爆者医療に当たっている方に対する研修として、医師専門家研修をやっております。昨年、HICAREと合同でさせていただきました。そのときの写真ですが、長崎から、NASHIMとHICAREから医師が韓国に出向いて研修を行いました。こういった取り組みについては、今後も強化していきたいと考えております。

長崎ヒバクシャ医療国際協力 (NASHIM) Mission of NASHIM

人材育成のとり組み: Personnel training
 チョルノービリ・セミパラチンスクなどの世界の放射線汚染地域でヒバクシャ医療に従事する人材を育成するための事業（研修生の受け入れ、専門医師の派遣、医学教科書の出版）
 後継者育成の取組: Training of future specialists
 ヒバクシャ医療を通じての国際貢献と平和希求の精神を継承する後継者を育成するための事業を実施（講演会の開催、事業紹介パネル展の開催、啓蒙図書の作成、永井隆平和記念・長崎賞の授与）
 ヒバクシャ医療情報の受発信: Exchange of information on Hibakusha's medical care
 国際ヒバクシャ医療情報の収集・発信と緊急被ばく医療に対応できるようなホームページの充実

長崎大学での研修 Training at Nagasaki University



日赤長崎原爆病院研修と原爆平和追悼記念式典への参加 Training at the Japan Red Cross Nagasaki Genbaku Hospital and participation in peace ceremony on August 9



韓国医師専門家研修（専門家派遣） Training of medical specialists in Korea



#6

In broad terms, NASHIM focuses on human resource development—training professionals through trainee programs, overseas dispatch, and medical textbooks. It also works to cultivate the next generation who can continue providing support to radiation-exposed individuals, both overseas and in Nagasaki, and to disseminate information on these efforts.

#7

This photo shows trainees being received. Taken in August last year, it marks the first acceptance of trainees from Ukraine in three years. Previously, trainees came from Ukraine, Belarus, Russia, and Kazakhstan, but after the invasion, it became extremely difficult—especially for medical personnel—to leave Ukraine. Last year, a one-month program made it possible to resume training after this hiatus.

#8

At Nagasaki University, trainees participate in study sessions, as well as training at the Nagasaki Red Cross and Atomic Bomb Hospital. They study the realities of examination and diagnosis for radiation-exposed individuals. They also attend the atomic bombing memorial ceremony held on August 9.

#9

These programs also include training for doctors and medical professionals who provide care to Hibakusha in Korea. This program is carried out in collaboration with HICARE. We dispatch doctors to Korea to provide training, and we hope to continue strengthening these activities in the future.

#10

また、派遣事業といって、今度は長崎の専門家が被曝した地域に行って医療人に対する研修を行っています。この数年はカザフスタン共和国、セミパラチンスクの核実験場があった所に、8～9月に派遣して研修を行っています。ここからは、今、留学生もかなり受け入れており、将来的な後継者育成にも力を入れているところです。

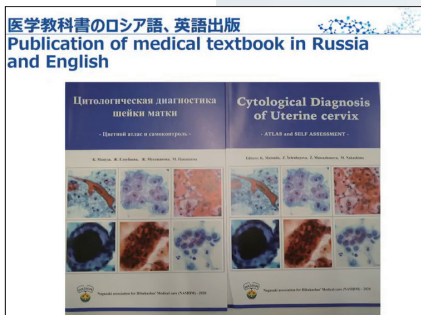


#10

In addition, through a dispatch program, experts from Nagasaki travel to affected regions to train medical personnel. In recent years, they have conducted training in August and September in Semipalatinsk, Kazakhstan, a former nuclear test site. The program also accepts increasing numbers of international students and promotes the development of future successors.

#11

こうした際に、やはり教科書を作る必要があるということに気がしまして、旧ソビエト連邦の共通言語であるロシア語での教科書の出版も進めてまいりました。これは細胞死に関する教科書ですが、こうしたものを作って現地の医療機関に配付することを通じた専門家育成の支援をしております。



#11

In doing so, we realized the importance of developing textbooks in Russian. Therefore, the publication of Russian-language textbooks has been carried out. One of these textbooks focuses on cell diagnosis and cytological diagnosis, with the purpose of supporting specialists.

#12

さらに、長崎においては、若い世代に対して長崎原爆について知っていただくということで、「漫画で学ぶ長崎原爆」を作り、これをわれわれが監修するという形で発行して、小学校に配るといった活動もNASHIMとして行っております。



#12

In Nagasaki, NASHIM promotes awareness among younger generations by supervising and publishing Learning about the Nagasaki Atomic Bomb through Manga, which is distributed to elementary schools.

#13

それも含めたNASHIMの活動の普及啓発をしております。パネル展を実施したり、海外から研修に来られた方をNASHIMとして受け入れて、こういった活動を行っているかを紹介させていただくこと。



#13

Outreach activities are also conducted through panel exhibitions. We receive trainees from overseas and introduce them to our activities in Nagasaki.

#14

また、県内の小学校、中学校に出前講座という形で、これもHICAREがやられているのと同じようなことですが、こうした活動をしながら、未来の医療を担うであろう若い世代に、原爆被爆者医療の大切さを知っていただく取り組みを行っています。

出前講座 Visiting Lecture



#14

In addition, we provide outreach lectures at schools, including junior high schools and elementary schools. Through these activities, NASHIM works to raise awareness of the importance of atomic bomb survivors' medical care among younger generations who will lead the future of healthcare.

#15

そうした活動については機関紙を発行し、一般県民・市民に活動を知っていただく。これは当然ながら、長崎県・長崎市の税金を使って運営している事業ですので、納税者に対する情報公開を行っています。

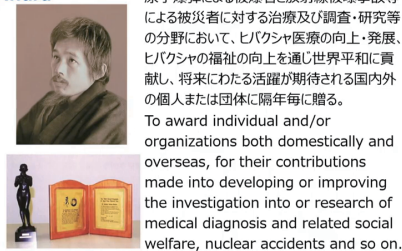
機関紙ナシムの発行
Bulletin of NASIM

#15

Magazines are also distributed to inform people about our activities. These publication activities are funded by the prefectural government, and therefore we believe it is essential to disclose and communicate our work.

#16

NASHIMの一つの特徴として、2年に一度、永井隆平和記念・長崎賞という、被爆当時に被爆者の救護に全力を尽くされた永井隆先生のような医療人に対する表彰を隔年で行っています。

永井隆平和記念・長崎賞
The Takashi Nagai Memorial Nagasaki Peace Award

#16

One distinctive feature of NASHIM is The Takashi Nagai Memorial Nagasaki Peace Award, presented every two years to honor medical professionals who, like Dr. Takashi Nagai, devoted themselves to caring for atomic bomb survivors at the time of the bombing.

#17

これは、昨年の永井隆平和記念長崎賞の様子です。先ほどIAEAの話が出てまいりましたが、今回受賞したのは、IAEAの部長をされていて、福島事故時に情報発信に努められ、あるいは日本との関係構築に尽力されたレティ・チェム先生、現在カンボジアで上級大臣をされていますが、この先生に受賞していただきました。

永井隆平和記念・長崎賞
The Takashi Nagai Memorial Nagasaki Peace Award

#17

This photo shows last year's Takashi Nagai Memorial Nagasaki Peace Award ceremony. The recipient was Dr. Rethy Chhem, a former IAEA director who contributed to information sharing during the Fukushima accident and to strengthening ties with Japan, and who now serves as a Senior Minister in Cambodia.

#18

来年、NASHIMは今年のHICAREのように35周年を迎えます。これからどうするかということですが、人材育成の取り組み、後継者育成の取り組み、これが今後も極めて重要な位置を占めることは間違いないと思っています。特にウクライナの復興支援に、今後われわれは力を入れなければならないと考えています。ウクライナでは戦禍が長引いており、核攻撃のリスク、こういった形かというのはいろいろあると思いますが、核攻撃のリスクを常に抱えていますから、こうしたものに対応できるような人材育成、先ほど廣橋先生からも話がありましたが、そうした人材を育成していく取り組みが重要であろうと考えております。

そして、私は前回は申し上げましたが、HICAREとの連携が非常に重要だと思っております。お互いの強み、お互いのフィールド、重なっている部分もありますし、異なっているところもありますが、そういった部分を連携させていながら、兄と弟が力を合わせて、これからも国際被爆者医療に貢献できればと考えております。ご清聴ありがとうございました。

NASHIMのこれから Future direction of NASHIM

人材育成のとりくみ: Personnel training
後継者育成の取組: Capacity building
ヒバクシャ医療情報の受発信: Exchange of medical information of Hibakusha
ウクライナ復興支援: Recovery support of Ukraine
HICAREとの連携: Cooperation with HICARE

#18

Next year, NASHIM will celebrate its 35th anniversary. Looking ahead, we will continue to focus on human resource development, personnel training, capacity building, and the exchange of medical information. These activities must continue. At the same time, we must also provide support for Ukraine's recovery. The war is ongoing, and there is a constant risk of nuclear attack. Therefore, developing human resources capable of responding to such situations is essential.

As mentioned earlier, collaboration with HICARE is essential. While we share some common ground and have distinct strengths, we aim to work together—like brothers—to continue contributing to the medical care for the radiation-exposed individuals all over the world. Thank you for your attention.